

これは、2013年1月28日にダイムラー社、フォード社、日産自動車から発表されたプレスリリースの日本語訳です。

## 戦略的協力関係にあるダイムラー、ルノー・日産、フォード 燃料電池車技術の商品化促進に向け合意

- ダイムラー社、フォード社、日産自動車は共通の燃料電池システムを共同開発する3社間合意書に調印。ゼロエミッション技術普及の促進、投資の大幅な削減を目指す
- 提携により、早ければ2017年に世界初となる手ごろかつ量産の燃料電池車を発売予定
- 3大陸の3企業が参画するユニークな提携は、世界仕様とコンポーネント規格確立に寄与
- サプライヤー、政策立案者、自動車産業に向け、世界的水素インフラの一層の整備を明確に奨励

ダイムラー社、フォード社、日産自動車株式会社は1月28日、燃料電池車(FCEV)技術の商品化を促進する3社間の合意書に調印しました。

この提携は、技術開発に関する投資を削減する一方、共通のFCEVシステムを共同開発することが目的です。各社はこのプロジェクトに均等に投資します。デザインの共通性を最大化し、規模の拡大で経済効果を高める戦略により、早ければ2017年に世界初となる手ごろかつ、量産型のFCEVを発売する予定です。

ダイムラー社、フォード社、および日産自動車はFCEV開発に関し、累積60年以上の経験を有しています。3社のFCEVは世界中で、お客様による運転や実証実験などの様々な状況下で試験走行1,000万km以上を達成しています。3社は、共通の燃料電池スタックと燃料電池システムを開発し、その後各社から明確に差別化された異なるブランドの下で、走行中にCO<sub>2</sub>を排出しないFCEVを発売する予定です。

本提携は、サプライヤー、政策立案者、自動車産業界に対し、水素ステーションやその他FCEVの量産化に伴い必要とされるインフラが一層整備されることを明確に奨励するものです。

水素と酸素から作りだされた電気を動力とするFCEVは、走行中に水しか排出しません。FCEVは、現在のバッテリーを搭載した電気自動車を補完するものとして考えられており、ゼロエミッションモビリティのお客様の選択肢を広げることになります。

日産自動車 研究・開発担当副社長/取締役 山下光彦のコメント

「燃料電池自動車は、自動車産業がより持続可能な輸送手段に取り組んでいる中で、今日のバッテリー式電気自動車を補完する次のステップとなることは明らかなです。私たちは、ゼロ・エミッションのラインアップにバッテリー式の電気自動車以外にFCEVを新たに加えることで、将来多くのお客さまのニーズに応えられることを楽しみにしています」

ダイムラー社 取締役、グループリサーチ、メルセデス・ベンツ・カーズ開発統括 トマス・ヴェーバーのコメント

「私たちは、燃料電池自動車が将来のゼロエミッションモビリティにおいて中心的な役割を果たすものと確信しています。3社の強力な布陣により、燃料電池を使ったeモビリティをより広めることができます。今回の提携により、世界中の多くのお客様に燃料電池車技術を提供することを可能にします」

フォード社 グローバル・プロダクト・ディベロップメント グループバイスプレジデント ラジ・ナイールのコメント

「協力して取り組むことで、お客様にとってより手ごろな価格で、燃料電池技術が市場投入される時期が早まるでしょう。各社は、単独で取り組んだ場合よりも優れたソリューションを、連携のメリットとして享受します」

燃料電池スタックおよび燃料電池システムの開発は、3社共同で世界数箇所の拠点で行われます。また、3社はさらなる相乗効果を目途にFCEVを構成するコンポーネントの共同開発も検討しています。

3大陸の3企業によるユニークな協力関係は、規模による経済効果の必須条件となる、世界仕様とコンポーネントの規格確立に寄与します。

### **燃料電池車について**

FCEVは現在バッテリーを搭載した電気自動車同様、従来型の自動車よりも効率的で、石油以外の多様なエネルギー源を利用します。

FCEVで使われる電力は、車両に搭載した燃料電池スタックで、専用設計の高圧タンクに蓄えられた水素と空気中の酸素の電気化学反応により作られます。副産物は水蒸気と熱のみです。